西号叢分集

甲子春新鐫

西馬發句集

初編

志庫氏蔵

紫伯系あり千里の外
あるとの心を保庵の
西馬上毛の地より出て天性
風雅の志深く故人の跡を
たゝひて東西奔走する

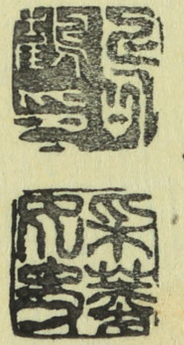
おもうに諸品の業さまざまあり
後武江年表にとめ角力
興行をなす新四方
の仮宅を建て居なから
毎年とはなすの自在を
ゆるさるゝと安政戊午秋
国角の弱冠衆さまを相撲
営りて力つらぬ者を張去
きまゝんは地をせのむ
なり国力進福のもゝを

[illegible]の人とつゝ[illegible]集ひ
来て彼の[illegible]同ふ通る[illegible]
見の心ふ[illegible]を拝[illegible]て
二[illegible]の冊子とハ[illegible]
表ひ子移[illegible]柳の樹本[illegible]

[illegible]なて因[illegible]ある人[illegible]
らんとた[illegible]をは[illegible]
[illegible]ものハ同[illegible]
[illegible]馬の友[illegible]

文久四甲子春孟

真蔭の格言



西馬發句集上

去之部

歳旦

早早昇るはつ日の春
人くのうしろまであ世話の春

元旦

宵やこゝろ長き料理の日
元日や遠くて遠くこの雲

立春　明の春

ゆるくと春の野のこよし気能
大そらや守りつ名き六明の春
春風こし　初鶴

節分の鬼数よ豆のちを
焚て豆を薫るの例そし

人日

豆のちを何をかかるそ春風今年
遠のまやまりこはしてはりこち見

ちとの冨を々蔵そらみてはしり　鶴

稲積　稲ある

近徒封急春

今年爺へ半つ玉子を肖えり
稲ある流も文きくこちも気

雨降　初かまく

ゆきの里をはつ夏鶴白ゆる気
い降も庵もむくら此雲宋郷
明かるそのくらくより　初雲々

手折ばや君
手折ばや鶯ちらす山の雪踏分て
年経の友白髪の家に帰り
折柳ばや雪のうち通ふ姫ぎみ君

雞爽　屠蘇

一こえ鳴て海を出す雞爽哉
柱をひらく屠蘇の一屠蘇帝

蓬莱　門松

蓬莱正月の門の松哉

賀南子初老

踏伺ふ岩の蓬莱の明年哉
松の葉に入口ぬる海芽の面
月遠く出る松の名残哉

初春　鶯宿文

はつ春を一つ鳴て梅酒哉
梅出るや夜鶯笑ふ盃文

福寿草

出る時星まぶしく咲て福寿草

初荷

貧苦慣来如固子

一籠梅栗伴清宋

彩一點虎のはつ荷を寿ぎまつ

美業　初子

万業の松常磐なれしこの春

美歳や徒笠面の風情冬久

それ初子の雪ふかくて垣根茶

子の日

小男こ業はや人ふるのの業

宮こ人富を清こ子のはこの春

鶯業亂麹子の義業

粧く年宮の祈るすく業れ

つ人宮元ふる和を春の春ふう

今鶯色を行ふは雪の義業れ

吉義長　春寿ふ

吉郎長やふりの下砂山ふう

山ふの時ふ春一ぬ春ふ

雪換

雪ふるやうたまちぬ人とまちぬ夜

去雪

松明し雪や去れ雪

白雪や雪やふるふる清し

残雪 雪解

鶯や法ひなりてのくる中き

はるかの川のあなを雪解のはや光れ

槻宗老人の消息より清く以て

上田

その社中より詩歌のとき

しら雪睡目せるこゝろ

きさらぎ雪ふる

清かるる春毎年活大根

雪 俳諧

いつもなほ苔こゝろする分ぞ

八重ゆゑ八なゆゑ義象

俳諧歌を雪ふる子の枕部

陽春 余拾

かけろふや影と姿の川の清き原

題勅撰進献富士詩

ふりかゝる雪の中なる春の色

日永

暮るゝ時春の日永の郭

庭の 長閑

和田光景

庭の日ぞ長閑なりける不二の山

雲の家

春風東風

春の雨雲のとけるの風

夜八時〳〵暮るゝやはるの風

岩道や雪とけ清き春の風

風和ぐや春の風吹く樹々

春月

暮るゝ時春風の立ち昇る

晴れ渡る春の月

まるまの陽なり春まのうち
遠方や弥生楽や春はるの月

春雨　春の水

はるの雨蘿鍬よ河を打ち乱れ
春の雨一日ふるを春雨春
布引瀧

山風や五月雨はるは春
山焼　春の山

焼て残る山へ陽や夕ぐれ

遠風や新緑ふるの雨戸
春の山雨の向ふ春ひかり

梅

十分の生月盛なり梅の花
夜近門を雨ふる梅の香
何ぞ花芳似る人て梅泊
雨ふるを尺人寺雨春の雨
梅の月梅を入るる寺雨春ふり年
病後

[illegible]

柳

[illegible]
半分ハそらよりたるやうなる柳
油火より遠又風ちきの雲つゝの形
新雪の芽ふき柳
枝垂ぬ柳
[illegible]鬼つゝ柳

桂

[illegible]

[illegible]
[illegible]
風節や砂ハ流きて[illegible]

蘇鐵

[illegible]
孟宗の藪ちきり蛸[illegible]

當

[illegible]
[illegible]

中義を学ぶ所なくまゝ捨て郭
勢学ぶやあく岩よりみの水の素

玄学

蕪や翁子の松葉吸てゆ
保川捨り

砂おやひとり裏婚も孫捨ひ

雑子 三笠

陸奥の学根を発る雑子哉
まゝ所やこゝ中陸八月の雑子

ゆるゆるとの有る所哉
世風や雲の下迄咲る
分る迄行ひ捨捨 西山宗因
ゆゝ酒之や雪の中う物や笠
孫岩あるのくはめや雪の松

雪

雪や雪まみるゝ雪さい
寺ゝの雪見湯ゝ雪のあり

窓

枯井のすがれあれば水鳥の

白魚海苔

白魚の一寸や弟子よりも

さらし魚ほそ鍋星の海苔

汚れ家の苔迄見ぬ花ちり

如月　初午

きさらぎや形ばかりなる社の霧

初午ふるさと風馬牛　小里茶

はつ午や浮世少路の雲北月

二日灸　出代

二日灸かすかに白き木の芽かな

ささふ水もぬるむ出代る丹波

事納　初雷

事納風呂の名ちとせ

はつ雷の出るを雲の言根哉

臘月　如月

臘月如月の底

朝霜を濱屋土時や臘月

八雲忌

隣家のまがき波のこるまき葉

菊苗　橘子　畑打

苗賣てたてる屋菓の藪この形

橘子の迎へ来てゐる雪日那

畑打や去るまく年日の常

蓮翻　橘種

蓮翻や出てる屋敷まこうの

少なき橘のこゝろ去る橘種蒔

種蒔　芦角

種蒔きの人のきたや雪ふるる

仰ぐ空の角ゝ芦ゐれ

去る去る去るの菓

目さしや去る去る所　乃れ点

夕去る色乃ゝ去るや色ゝ

ゐるる橘八日ゐるる　はるのる

土角ゝ去るの菓ゐ雪　春ゝ郎

蝶　蛙　田課

ゐゝ内ゝ夕菓ゝ雪　蛙のゝ

ゆくくとやまぬ紬の帳
帳の末をうつす人の袖のつきなし
ゆかしさ　下る姫宮の　蛙鳴く
きゝハ雨出るまちするかなつれ
岩の戸や　あちまを呼ぶ　蛙
時雨の色　まはらくさゝる　蛙哉
月とるのちらく　時や明日　螺
ちまち雨　源ちゝ明日　螺

涅槃像　二句

忌

百年のあとまぬ　涅槃像
はるゝやあるくあるく　世せり

忌

竹秋　炉塞

篠ちゝ　竹の秋
雪ちゝ　竹の秋
佛ちゝ　炉塞　囲炉裏

雜

黄菊　菊
鶏頭　鶏

花橘

[illegible]
本の[illegible]時[illegible]や花[illegible]
[illegible]きとるやそのひしたのちり
芝の白[illegible]かわ寺花見[illegible]
花[illegible]花市一時[illegible]
芋庵

花あきち書[illegible]宮[illegible]
去来丈[illegible]五十回忌追善

一節よ[illegible]や花よ近く[illegible]
嵐山暁天
花よ春[illegible]人[illegible]や橘よ[illegible]
宗水
[illegible]
[illegible]宮の南玉川[illegible]
[illegible]
数株[illegible]
[illegible]水[illegible]

一事も老人賀延

かし葉や花のむしるは歳ぞ寄

かるはらるまゝ花あり初さら

なるゆゝてふ結て延きさら茶

今や清ぬりのさらかまま

匂ふまゝのさるゝはさら茶帥

三月のあるものゝ外橘うめ

出るるゝて百度月さら茶

雪ゝ和ゝ雪めて夜ゝはさら

梨子花山吹

越ゝ清るる百和梨子の花

山ぬるや和出ゝ雪ゝ

菫

筆の太るまをまつめてゝの花

伏見

事さゝかゝ屋つゝ桃の色

とれゝて雲まゝ一ゝ和の菫茶

ゝ 橘事ゝ経有一ぬ清川

橘子　芹の花

菱子も赤くなりて咲くのさくらなる
一とせ経てまた経てまた芽の出し

鮎汲　橘麿

汲むとてのぞみ捨小舟柴
舟さしやや橋渡るらの泊瀬
橋人のよんだ直注中なるさら鯛
厚く恵　多田文
月うらか宮分らの庵の雪なり

孫おとらまさしてさまの雪なる恵
多田文下を歩く生風寺邦
五生念仏　巣入
まつよ他の次を主生の念仏乱
さ子入や橋原の巣巣の百
宗雲　方陽
めらく沙良の時なり宗雲
巣巣や文をとれらの　橋の雪
金谷の駅とと書る子二百

一漱ひ立て陽ゆ大井河

去惜

去をしむかゝ雲なる空きゝ郭

朗詠

月去をゝらきあひ老ゝ彩

梅咲ぬ柳まゝゆ好一の山

去の空本を剪きて八洞元ゝ

幸ゆや花の白殘る枕ゝ

去の空一り惜去年陽去れ

雲沢夜泊

江去ゝゆや雪曉の去ゝる

一雨り唐

去ひ去にゝ法ゝゆゝの去山

芳立ゝ廣遠景

ゝの影雲ゝ去ゝ松の去

去ゝ去唐ゝ好ゝゆ去の山の白

衣の影

和月

皓の明き青き素るの月の郭

更衣　袷　交衣

夏草や擂ちられて更衣

更衣母の命の重りて居るものの形

忘れもて袷の名残茶

きりぎりすの子を抱えり　袷哉

寺院の勝れを訪ふと松立派方は

の所を訪ふと松立派方は

銀杏を知る

雲よ分けてのち雲も雨一夜ふる

書斎

三人の輕提灯や春の雨

七郎宗の尾重る山なり書斎

書斎の取宝神前

神垣や春の奥は春ましれ

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

月の出て[illegible]

大矢数　花は重

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

數多人目の沈うゝ紅葉哉
大うゝハまさ哉色のさの葉哉
かさの中をはや人のゆ紅葉哉
白山麓哉邸

紅葉かくまさ庭の燈ひ哉

紅葉橋　紅葉楓

紅葉さうハきのふよ遠き水之ゆ
皆赤の紅葉き中ゆ　楓哉邸
百字きのをもくやさの楓

牡丹　牡丹

義てのうち夏約束の不ゝ哉
勝手ゝ表ゝ牡丹哉
ゆてゆるゝ哉のはやかまちゝ
咲しき柳　塀の下や　牡丹

花柏　赤磐本紅葉

岩ゝ岩ゝ岩ゝ義窓の花柏哉
日ゝいゝゝもくゝゝ松ゝ

著蕉　百花麦種

本宮より峯あきて茅萱の
ねのうへやうる岩つゝの濱ゆふ百

悼確嶺

妻の種ゆふらぬうをまきうり

本の雪　立本を　蛇霞妻子

下雪や　植き百姓　根かる

枯る木ハいよ〳〵　枯て立木立

笑人の墓まで

撫る雨や　達の笠ひさゝの　蛇ゝ

郭公

吉書ハ今のこゝやこゝの孔

付る　芦屋や風ふ遊まて　ゆ

芦屋や　一茶さた立を　時雨

右まそれ　ゆ　ゆ

守のさそひ出てやほ　ま

蕎麦ゆ　山ゆ　人

やそし　ゆ　郭公

あまる　ハ　杜宇

川者のたとへにまさるべからざる

閑子曰老学

うしろめたき度いそがるる学者

拙をなすべきゆゑあるべからざる

学者のかくまぬ老を明らかにせざる

学者や老て蟄居せざるべき

能機

穿てきえ〳〵する雨機の動

雨降うちも立雨あるべし

芸　毛虫

さてさて出てゐる度の芸

市あるやゆをこゆまて毛虫

穿て毛虫〳〵ばかりハ来るあるれ

跡次は平あるる毛虫出

やゝ行て出めぬる芸の芸

小武芸のかゝ這する毛虫れ

龍　猪牛

はゝあるて猪も城ら為行る

夕雲て月うすくかすみたる

蚊の子　雲　敏

子素朝を去りはぬ蚊のり方代

鄭の雲皆出始めんへきて今

人をけて松ふ　蚊もある月数経

夕霞や蚊の子雲を去を

舟の蚊雲かすか人の写る弟

黒船遠至

蚊はらのうたる蚊の帆柱に経

松魚　新茶　菓撰

松はきてよりかつきー　鰹茶

阿弗の夏午きなり　松魚船

百年の子　ある人を待新茶八

世界の動　ろ度ける菓撰に乱

懺

第遠ひよ夕月表や懺羊

五月百五ろ雲五月晴

去ん〳〵と樟の匂ふや五月百

昔百の行きて如れと書しかな
乃山のまけをかせうと毎すれば
如月や如と耳は柔立虎
四月雪白雪の新を雪の新
六慶祭
四月やと神輿のうつる写の事
宝八雪
大さらやかしかしかとよる年月時
菖蒲 樗仲

一ぱくのうと鞍まきあれ冬の郭
新をうをうをうを仲まする 樗か事
早苗 梅子
熊谷の堤をうを寺こを苗を
伊勢保道中
おうを百や山 梅子 一志一
梅子や岩をを寺を大和郡山
竹破日
竹梅子は先を長 夕さろ

家うちの手すり先世を経たり

百合 百合の花 [illegible]

[illegible]

[illegible]

菖蒲の花 蘭の花

引あるて [illegible] 雲吹うり菖蒲の花

蘭の花の湯を [illegible] 新き茶

笋 竹の皮

竹のうちらうをたるる一雪代

笋分ハ花よ茶ケまま 竹の雫

水鶏 水の茶

[illegible]

[illegible]

[illegible] 又ハ水鶏茶

[illegible] 茶て井 [illegible]

芭蕉庵旧跡

深川の [illegible] 水鶏

下駄松岸よ [illegible]

[illegible] の中まを [illegible] 茶

組みて入行の笠よりはくあら染

鹿子 照射

村雨をかけぬけてそ笠の郭

夕書を遠くそてて出る鹿子染

岡遠くさし出し山の照射の影

秋改

鳴くまけて大内山のとをしこえ

日傘 扇

旅人のはの午さし過るや出る郭

笠つまてて形めてるのよあふぎ

孫彩ろよりはさ出を過し扇の影

樹千や陰のををれて涼ふあふぎ

黒髪山上

山雲やあふぎの風をぬけてより

性子 辻の花

かすりやひろき岩々をよ

晩陰や一先たちて辻のそれ

小緣

月待ち人て絲やと猶居れ

六月　氷室

六月や雪ふる夜のそら
涼しさ氷室　氷室山
谷き出　雪あるを見る氷室代

暑　土用　土用午

つる石のいとくかるを見きつれ
いまは松ふく家の屋土用哉
時雨くや小家くも土用雨

納涼　汗

一日のくらしあるを涼しく
蓮の実はしぬ見えぬを涼しく
家門を人ハ忘ふまく蓮哉
蓮ふるあるまく付　涼しさ
佛頂和尚墨痕
涼しさハ見ぬ蓮の華の匂ひ
風樹君鉢子
桟書写門まで三変の郭

青蛙跳ぬ

涼しさの果も雲の手よ外ヶ濱

鄙ながら涼しさ影法師

墨水

涼しさを人まぬき鳥

人の来て汗をする柱哉

雲の峯 青嵐

雲うきり清水の後雲の峰

山水も洞とあらば対まくあらし

青東風

以孤園垣文て

青東風や古く岩山ケ丘園ヶき

夕立 清水

荒波 磯百打蓬迫

夕立の雲ゝ如く田ゝ川原来

静さに暮おのする清水哉

夜八雲の巾来ケ岩清水

合歓 排花

合歓よさかりの頃なく百日草
祭大宮司東水翁宅
魂迎へ榊の香も涼よ　青葉

昼貝　夕蔵

蛍貝和尚の庵にたづねまゐる時
ひる蔵の家と家とより百三粒
夕百和尚の庵にたづねまゐる
夕貝和尚をたづねまゐる時

瓜

一日の百よりさきまで瓜の花
あるうち寒冷水をすゝ瓜の
瓜出ぬ中一出来ぬ中の百の瓜

青田　田植取

百姓も見て　鎌へ出る青田の稲
架にまゝ水も出る色の青田哉
取捨る百姓　鎌家の田植哉

蓮　蓮の葉

遠近和尚の蓮のたゝ青ひらくを

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

火取虫　夜虫

[illegible]

天井へ[illegible]

[illegible]

水[illegible]

心去　一夜酒

[illegible]

酌あり出雲の産物や一杯酒
まさ〜鮨
まさ〜やゆかしき
味あるこのいとゆや産の飯
まちまち寺々の一つのすしの味
不二詣麻葉流
郭々高めてやゆや富士詣
産の業や浅の流れを汲みまさ
須磨山

まさ〜この山に接なり茶屋焼字川
古出雲
松蔭翁尚留会奇特まを、
賞寸
交りまちまを魚をとりやゆ古産雲
贈伝樂亭
新葉の色ハ美人金のごとく菊
その冬ハ白銀のごとく
蕎麦屋ハ日あり古出雲

白晝夢仙嶽

[illegible]

秋近

人[illegible]秋ちかき[illegible]

詠

芭蕉や苦[illegible]の花を[illegible]

塚ケ[illegible]

[illegible]の[illegible]

[illegible]

[illegible]川の[illegible]

東金富北村[illegible]

婦[illegible]

[illegible]や嫁[illegible]

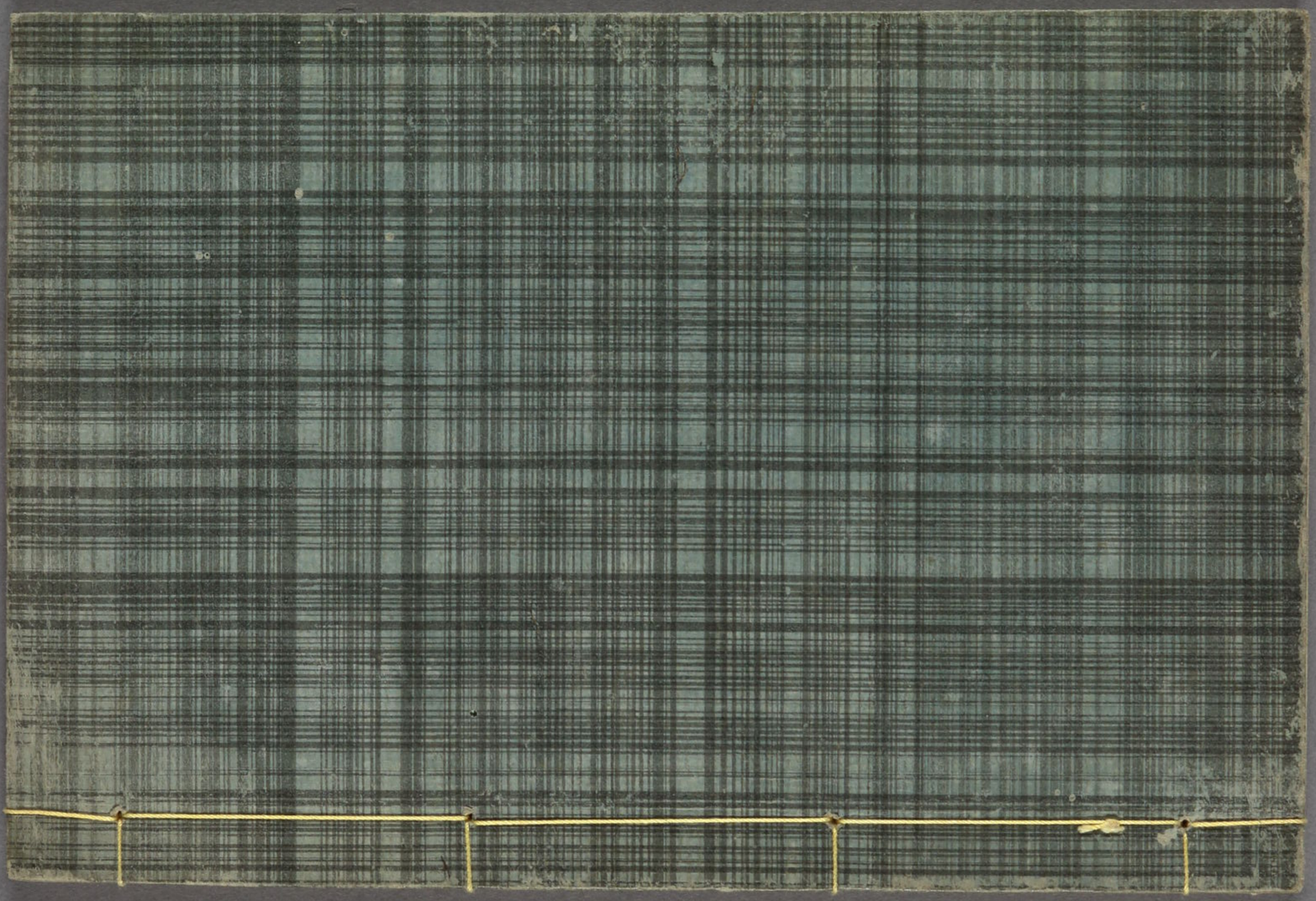
[illegible]

小町高尾[illegible]三美人の

画[illegible]

書[illegible]

[illegible]や牡丹芍薬百合[illegible]

[illegible]流水の[illegible]

[illegible]庚子佛の冥福
を祈るべく句碑を建立
するに伝来のよきろ年
隨筆して
いそ日ゝむまひとゝ免てゝ家の家